
東日本大震災における石巻市遊楽館福祉避難所の活動報告

(赤井健次郎ほか、日本集団災害医学会誌 2017;22:252-258)

2018年6月15日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

1. 遊楽館が福祉避難所に認定されるまでの経緯

遊楽館は石巻市が運営するスポーツアリーナ・コンサートホール・室内プール・図書施設・多目的会議室等を有する複合施設である。同施設は内陸に位置しているため、津波の影響を受けていない。地震の被害をほとんど受けなかったスポーツアリーナ(広さ 1,635 m²)のみを避難者の入所施設として使用された。

遊楽館が避難所として運営された期間は 2011 年 3 月 15 日～9 月 30 日である。

初めは一般の避難所(指定避難所)として運営された。水道・トイレ・空調などの設備が備わっていたが、使用が可能となったのは3月末頃からであった。

その後、4月25日に遊楽館は石巻市の認定を受けて福祉避難所となった。これは石巻地域の各指定避難所で、入所者の約1～2%に相当する ADL (activities of daily living)の低い入所者、あるいは認知症などで介護度の高い入所者への対応が問題になっていたことを受けてのことである。遊学館福祉避難所として石巻地域の各指定避難所から介助を要する認知症患者や自立に至っていない退院患者を引き受けることになった。この時点で入所者は約100人で、医療関係者・非医療関係者を合わせた日中の支援者は約70人である。

2. 遊楽館福祉避難所が行ったサービス

- ・ダンボールベッドの提供(手すり、部分的仕切り付き)
- ・土足禁止の床と定期的な床の電気掃除機による清掃および薬剤による床の消毒
- ・エアコンディショナーによる空調管理
- ・石巻市立病院の職員と日本プライマリ・ケア連合学会支援の医師・看護師常駐による入所者の健康状態の把握と医療機関受診の支援および介護
- ・皮膚科医師褥瘡対策チームによる訪問診療
- ・高齢者誤嚥性肺炎の予防などを目的とした口腔外科医師口腔ケアチームによる訪問診療
- ・廃用症候群の予防・ADL 低下の予防・血栓塞栓症の予防などを目的とした理学療法士チームによる給食導入
- ・薬剤師チームによる薬剤の管理
- ・うつ病や PTSD の治療・予防を目的としたこころのケアチームによる巡回診療や質問票の活用による入所者・職員の精神状態の把握

- ・低栄養状態の改善・高血圧・糖尿病などの増悪防止などを目的とした栄養管理チームによる給食導入
- ・ダニ駆除剤による寝具のダニ・カビ対策による環境の改善
- ・医療ソーシャルワーカーチームによる後方支援(仮設住宅への退所準備)と退所後の継続支援(訪問診療・ケアマネジャーへの引き継ぎ)

3. 結果・考察

福祉避難所の入所基準は自立できず介護が必要であることだが、それは施設に人手を要することを意味する。国際医療支援団体 Project HOPE などの海外を含む各地からの支援によって人手の問題を解消し、施設のサービスを遂行することができた。

時間の経過と共に必要な人材が変化した。当初は入所者が多く、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、介護士の役割が大きかったが、仮設住宅の建設が開始された頃からは遊学館福祉避難所での主たる仕事は避難所からの退所となり、医療ソーシャルワーカーの役割が大きくなった。

遊学館福祉避難所開設中は入所者の感染症の明らかな流行・集団感染は発生しなかった。清掃、消毒、ダンボールベッドを設置し入所者の間隔を1.5m確保するなどの工夫がなされていた。インフルエンザ・ノロウイルスなどの感染症が発症した際の対策としては同フロアの一角に2床の隔離ベッドを用意していたが、伝染力の強い感染症の場合には集団感染の抑制は困難であった。感染症の対策は今後の運営に際し検討されるべき問題・課題である。